

独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センターの理念

私たちは人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供するとともに、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者の皆様がより良い医療を受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



記事「横浜医療センター健康フェア」はP5に掲載



謹賀新年

第59号 目次

幹部年頭挨拶	1
地域医療連携	2
戸塚区医師会会長挨拶	
特集 一医師が語る疾患一	3
第18回 脳梗塞の新しい治療法	
神経内科部長 高橋 竜哉	
連載	
職員リレー紹介 第17回 防災センター	4
行事紹介	
健康フェアの開催について	5
JR戸塚駅テロ災害対応訓練参加	6
戴帽式	7
第53回楓葉祭	8

お知らせコーナー	8
3年生実習終了、国家試験に向け	
年男・年女	9
小児科アレルギー専門外来について	10
外来担当医表／編集後記	11

発行 月：平成30年1月
 発行 行：独立行政法人国立病院機構
 横浜医療センター 広報委員会
 発行責任者：平原 史樹
 住 所：横浜市戸塚区原宿3-60-2
 電 話：045-851-2621
 FAX : 045-851-3902
 URL : <http://www.yokohama-mc.jp>



●当院携帯サイトはこちらから

幹部年頭挨拶

院長挨拶

新年をむかえてみなさまいかがおすごしでしょうか。病気には休みも祝日もありませんから病院は年末年始、絶え間なく患者さんに寄り添い、また病院の機能をストップさせないよう多くの職種のスタッフが動いておりました。今年は医療者にとっても昨今話題となっている働き方改革の潮流が患者さんにもよい流れであるよう祈念したく思います。



院長
平原 史樹

副院長挨拶

17年前に着任以来、正月の楽しみは、この原宿の地で箱根駅伝を生で応援することです。長距離を着実に、しかも速く駆け抜ける選手の姿に感動します。医療を取り巻く環境は厳しくなるばかりですが、当院が地域の皆様にもっと応援していただけるよう、スピード感のある運営を心がけていきたいと思っております。



副院長
宇治原 誠

副院長挨拶

本年は新専門医制度の初年度となります。当院では基幹プログラム参加7名が決定し、連携プログラムと合わせ10名以上の専攻医が誕生する予定です。新制度では指導医や病院からの教育に重点が置かれます。医師の働き方改革とあわせ、医師の professionalism と autonomy を保つような指導を行いたいと考えます。今年もよろしくお願いたします



副院長
鈴木 宏昌

統括診療部長挨拶

私事で恐縮ですが、今年、ついに還暦を迎えてしまいました。しかし、今まで以上に外科手術治療に専念いたしますので、これまで同様、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いたします。本年の皆様方のご健康とご多幸を祈念いたします。



統括診療部長
関戸 仁

事務部長挨拶

私、本年は年男 5 回目にあたり、これからは体調変化に留意しながらもポジティブに行動したいと考えています。当院では、職員皆様で取り組んできた収入増加策や診療材料等の価格交渉による経費削減により大きな成果が出てきました。さらに努力し健全経営を目指し明るい年にしてまいりましょう。



事務部長
新井 秀一

看護部長挨拶

戌年の今年を占う情報を見ていたら「2017年に燃え尽きた豊かさや幸せの灰の中から、新たに芽生えた新たな意味や価値が2018年に、グッと成長することを示しています。」とありました。今年は努力が実ると信じています。職員一丸となって良い年にしましょう。



看護部長
江原 くるみ

病診連携施設紹介

戸塚区医師会会長挨拶

新年明けましておめでとうございます。本年が皆様にとって、ご健勝で更なるご発展の一年になることを心から祈念申し上げます。

平成27年5月より戸塚区医師会メディカルセンター第13代会長に就任しました紺野です。平成28年4月の医師会館移転とともに名称を戸塚区医師会メディカルセンターから一般社団法人戸塚区医師会と変更させて頂きました。平成29年5月の戸塚区医師会総会にて会長に再任され、2期3年目となりました。私達戸塚区医師会は戸塚区の皆様の保健、医療、福祉さらに災害対策に寄与するため日夜活動しております。

戸塚区医師会の所在地は平成28年4月より原宿の大正地区センターの隣から、戸塚区中央の戸塚消防署近くへ移転をし、戸塚区区民のための休日急患診療所としての機能を充実させました。また夜間・急病でお困りの時には横浜市南西部夜間急病センターに戸塚区医師会会員が出勤し、診療しております。

また舞岡にありました訪問看護ステーションは廃止し、新たに戸塚区医師会館内に、訪問看護ステーションと居宅支援事業所を新設しました。主治医をはじめ、他職種と連携のもと、24時間365日の訪問看護も提供させて頂いております。さらに18区中最後となりましたが、在宅医療拠点事業として戸塚区医師会館内に在宅医療相談室を開設しました。戸塚区在宅医療相談室では、区民の皆様が安心して継続的な在宅医療・介護を受けることができるよう、病院、かかりつけ医、区役所、包括と連携し、各機関への調整・支援・情報提供をしております。多くの方が病気を抱えても、住み慣れた生活の場で、自分らしい生活を続けたいと望んでいます。そのためには医療と介護の連携が必要になります。介護支援専門員の資格を持つ看護師などが相談・支援を行うほか、在宅医療に関する普及啓発

を行います。

病診連携については、毎年病診連携会議を開催し、さらに各種研究会、勉強会を通して、顔の見える連携に努めており



一般社団法人
戸塚区医師会会長
紺野 勉

ます。特に横浜医療センターとは近隣地区医師会と行政を交えて「地域医療支援病院運営委員会」を定期的で開催し病診連携に力を入れています。

地域保健として住民健診、乳幼児健康診査、母親教室、検診事業、育児相談、成人健康・老人健康診査、がん検診、胸部検診・胃癌検診判定会等を開催し、また戸塚区内の保育園、小中学校での保育園医、学校医として会員がそれぞれ積極的に活動をしています。

災害対策として戸塚区災害医療連絡会に参加し、多職種の皆様と協力し災害に対処すべく対策を練っております。この度、医師会館が戸塚区役所の近くに移転したことにより、行政とさらに協力し、より有機的に災害対策活動することができるようになりました。

これら以外の医師会活動としては、年に数回学術講演会と市民公開講座を開催し、また定例研究会として肺読影研究会、胃X線研究会等学術のレベルアップに寄与しています。福祉厚生として戸塚区医師会会員の親睦を中心にクラブ活動をしております。現在、ゴルフ部、卓球部等に加え、食べ歩きをする消化器楽会、ハイキング部等が積極的に活動し、会員同士の親睦に努めております。

横浜医療センターは戸塚区医師会会員にとって、最も頼りになる病院と評価しておりますので、今年も市民の皆様の健康を守るべく宜しくお願いします。

特集－医師が語る疾患－

第18回 脳梗塞の新しい治療法

神経内科部長 高橋 竜哉

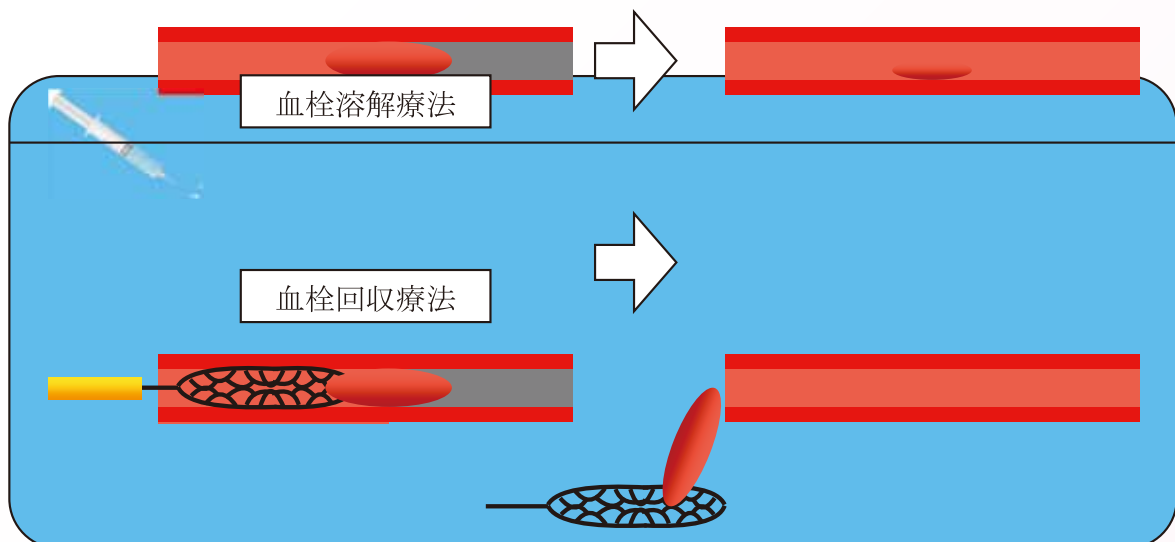


脳梗塞の治療は進歩が著しい。まず2005年にt-PA(組織プラスミノゲンアクティベータ)による血栓溶解療法が保険収載された。脳卒中が疑われたら一刻も早く救急車を呼んで血栓溶解療法が可能な病院へ運んでもらいましょうと市民に啓蒙し、血栓溶解療法が可能なt-PA病院が横浜市内を増えて行った。横浜市の音頭により救急車を呼べばt-PA病院へ搬送できるシステムを全国に先駆けて初めて大都市で整備した。しかしそこまでやってもt-PA治療が受けられる脳梗塞患者は全体の10%が精一杯だった。発症から治療開始までの時間が最大のネックとなった。その時間とは4.5時間以内。発症時刻はとて厳密に運用され、発症がはっきりしない時は最後に元気だった事が確認された時刻が発症時刻とされた。朝起きた時に既に発症していた脳梗塞患者のほとんどが適応から除外された。もう一つのネックは多くの禁忌事項で、脳出血の既往や適正な抗凝固療法中、手術や外傷のすぐ後など多岐に渡った。

前置きが長くなったが、2015年画期的な出来事があった。新しい脳梗塞の治療法の有効性が世界で初めて証明されたのだった。血栓回収療法

法である。血栓回収療法とは鼠径から大腿動脈に穿刺挿入したカテーテル(管)を詰まっている血管の血栓近くまで上げ、血栓を吸引したり「ステントリトリバー」と言うデバイスで血栓を絡め取ったりして物理的に血栓を回収する治療法で、時間の制約が発症後8時間までと緩くなり出血の危険も少なく原則禁忌はない。内頸動脈から中大脳動脈水平部までの血管に閉塞所見が無いと行えないが、この場合は重度の片麻痺や失語を呈する重症の脳梗塞になる事が多いため高い治療効果が期待できる。この治療は脳神経血管内治療学会が認定する専門医でないと行えない難易度の高い治療法で横浜市内でもt-PA病院29に対して17病院と限られる。2017年4月に当院にも待望の血管内専門医が着任した。2017年11月末までで10人の脳梗塞患者に対して血栓回収療法が行われその内5人は劇的に改善した。

脳梗塞診療は新しい時代に突入した。当横浜医療センターは24時間365日脳卒中を受け入れて最先端の治療を行う体制を整えている。いざという時は頼りにしてもらいたいと思う。



第17回 防災センター

患者さんに医療を提供するうえで、医師、看護師、その他医療従事者の他に、縁の下の力持ち的な方々がいることを今回ご紹介したいと思います。

今回ご紹介する防災センターは、病院職員5名と電気設備と営繕の委託職員で運営しております。

防災センターは病院1階の時間外出入り口近くにあります。防災センターでは、病院内の各種設備の維持管理に携わっています。病院内設備を大きく分けると、防災設備、防犯設備、給排水設備、空調管理制御設備、照明スケジュール制御設備、受変電設備、非常用発電機設備、エレベーター管制設備等があり、これらを日々維持管理しております。

このうち、防災センター職員が担っているもののうちから一つご紹介すると、防犯設備として各出入りに監視カメラを設置していますが、日々防災センター内でモニター監視し、患者さんの安全を守っています。24時間体制で患者さん皆さんの安全を見守っており、特に夜間は2時間おきに巡視パトロールをして警戒しております。また、防災センター職員とは別に警備員を雇い、病院内を巡回して患者さんの安全確保に努めております。



給排水設備点検

次に委託職員が担っている業務をご紹介します。

電気設備の主な業務は、自家用電気工作物の維持及び運用です。日々電気設備を点検して病院の電気を守っています。停電その他事故発生の際には速やかに復旧に努めています。患者さんの皆さんの身近なところでは、蛍光灯の交換とかも行っています。



電気設備点検

営繕の主な業務は、病院内の設備や備品の修繕業務です。各場所の床、壁、天井、ドアとかを点検し修理したりしています。患者さんの皆さんの身近なところでは、車いすのタイヤ修理やカーテンの付け替えなども行っています。



車いす修理

防災センターは、患者さんの皆さんに安全・安心を提供するうえで、今後とも陰ながらサポートして参りたいと思います。今後とも引き続きよろしくお願いたします。

行事紹介

健康フェア（かかりつけ医（ホームドクター）をつくろうキャンペーン！）の開催について

地域中核連携室長 富田 義徳

当院では、地域医療機関（かかりつけ医（ホームドクター））と当院の役割（機能）分担を強化するため、全診療科において平成29年4月から完全紹介制を実施しています。

当院の機能、医療制度を市民の皆様にご理解いただくために、これまで当院内で行っていた「看護の日」をあらため、「健康フェア」として11月18日（土）の13時から16時30分まで、今年度初めて会場を戸塚区役所3階の多目的スペース・区民広場をお借りして開催をしました。

当院の専門スタッフによる、がん相談、栄養相談、健康相談など、健康チェック、各種相談・体験コーナーのほか、当院への患者の多い戸塚区、泉区の両医師会のご協力をいただき、市民の皆さんが今、どう病院・診療所にかかるのが良いのか、かかりつけ医（ホームドクター）をつくろうキャンペーン！として、かかりつけ医（ホームドクター）が見つかるコーナーを設けたほか、戸塚区薬剤師会の肺年齢の測定コーナー、正しい救急車の呼び方など戸塚消防署にもご協力をいただき、各団体一体となってイベントを開催することが出来ました。

ただし、当日は寒く、天候はあいにくの雨。普段の土曜日よりも大分人通りが少ない状況の中ではありますが、約130人の方々にご来場いただき、来場された方々からはおおむね好評の声をいただきました。また、行政の行う市民啓発と異なり、医療機関らしい専門的な内容を評価していただく声などもありました。

今回は、院外へ出向く初の試みではありましたが、イベントのテーマに向けて各種団体等と関わり、コラボできたこと、さらに、イベントに向けて院内が一つにまとまり一丸となれたところは、当院の潜在的なパワーを凄く感じた場面で、私自身も貴重な経験をさせていただきました。

次年度以降は、今年度の経験も踏まえつつ、市民のニーズも踏まえた出し物の検討や、区内で開催される同様のイベントとのすみ分けなども意識して、当院ならではの企画を検討し、特徴あるものにしていきたいと考えています。



知ってみたいと思いませんか？緩和ケア



大切な人を救えますか？
BLS・AEDをやってみよう！

行 事 紹 介

JR戸塚駅テロ災害対応訓練参加

庶務班長 佐野 浩士

2017年12月1日(金)、戸塚消防署主催で、JR戸塚駅テロ災害対応訓練が行われました。この訓練は、不特定多数の区民が乗降する戸塚駅でテロ災害が発生した際の災害の防除、人命の救助などを円滑に行うため、行政機関として戸塚消防署・神奈川県警察・戸塚区役所、交通機関としてJR東日本・横浜市営地下鉄・神奈川中央交通、商業施設として戸塚モディ、医療機関として横浜医療センター、合計8機関が相互に連携し、災害対応能力の向上を図ることを目的として行われました。



爆発物処理風景

2020年のオリンピック・パラリンピック開催を想定した大規模集客施設・駅などのソフトターゲットに対するテロ災害対応能力が求められているところであります。

横浜医療センターは医療機関を代表し、横浜医療救急チーム（YMAT）として、救急科医師・救急看護師・救命救急士3名により参加しました。

訓練は2部構成で、第1ステージは神奈川県警による爆発物処理、第2ステージは戸塚消防署による毒劇物処理対応でありました。

横浜医療センターは、第2ステージで化学剤散布による多数の負傷者が発生したことに対して、救急隊と連携して、トリアージ及び応急処置活動を行いました。

トリアージとは、一人でも多くの傷病者に対して最善の治療を行うため、傷病者の緊急度に応じて、搬送や治療の優先順位を決めることをいいます。

訓練が終わった後の講評でJR戸塚駅長さんが、「恐らく戸塚駅でこのような大規模な訓練は初めてである。」と言っていました。戸塚駅の乗車人員は1日平均で111,405人(2016年度 全国30位)になります。このような不特定多数の人達が乗降する中で、混乱なく交通整理して対応できるかどうか、行き交う乗降者を見ながら感じました。こういった訓練を積み重ねることがいかに大事であるかを改めて思いました。

横浜医療センターは災害拠点病院として、いつか来る災害に備えて、今回訓練でご一緒した関係機関と密に連携して、地域の安全・安心に貢献できるよう訓練を積んでいきたいと思えます。



トリアージ及び応急処置活動風景

行事紹介

戴帽式

横浜医療センター附属看護学校1年生 (55回生)



私たち55回生は、戴帽式の誓いの言葉で全員で看護師になるための決意を表明しました。最初は、なかなかうまくまとめることができず大変でしたが、練習を重ね本番では55回生らしい誓いの言葉を述べることができました。クラス全員の心が一つになり嬉しかったです。(55回生 M・N)

戴帽式の練習と当日使用するナースキャップの作成と看護学生らしい身だしなみを整えられるようチェックリストを作り取り組みました。全員が整うまで時間がかかりましたが、当時は、全員が看護学生らしい身だしなみに整い、誓いの言葉で宣誓した「相手にとって好ましい身だしなみ」になりました。(55回生 M・S)

「ナイチンゲール賛歌」の練習に力を入れて活動しました。コミュニケーションを取りながらクラスで練習することにより学生同士の理解や連携がより深められました。その結果、戴帽式当日も成功することができました(55回生 K・N)

戴帽式では、学年全体で看護師になるための決意を固め練習を重ねてきました。戴帽式を通して、「積極的に行動する」「自分ができることを伝える」ということを学ぶことができました。(55回生 N・T)



私たちは、戴帽式に来て下さる方々に私たちが自身をもって誓える式にできるよう準備を行い保護者や来賓方から、「良い戴帽式だった」と言っていただき嬉しく思います戴帽式での決意を胸に、今後も看護師を目指し日々の学習を大切にしたいと思います。(55回生 Y・K)

戴帽式の総括担当として、練習の進行状況や伝達、情報共有を徹底してきました。事前準備を整えたことで、当日も無事に式を終了し、成功させることができました(55回生 Y・S)



行事紹介

第53回楓葉祭

横浜医療センター附属看護学校2年生（54回生）

楓葉祭にご来場いただきました皆様、ありがとうございました。

今回の楓葉祭のテーマは「傳（つた）える～助け合いの心（キモチ）～」でした。伝えるという漢字は、人は互いに大きな一つのものを背負い共有していくことを表しています。

楓葉祭の学習展示や模擬店の企画運営から、学生間ではチームワークを養いました。模擬店やバザーで集まったお金は横浜市社会福祉基金に寄付をし、横浜市の社会福祉に役立てていただきます。

楓葉祭を通してお世話になっている地域の皆様に、看護の魅力と感謝の気持ちを伝えることができたと思います。今後ともよろしくお願ひ致します。



模擬店では焼きそばや豚汁などを用意しました



高齢者体験



妊婦体験



「看護の歴史」を振り返り、看護学生の学習についてお伝えしました。立ち見が出るほどの大盛況でした

「看護の魅力」について技術体験を通してお伝えしました

お知らせコーナー

3年生実習終了、国家試験に向け

横浜医療センター附属看護学校3年生（53回生）



皆様があたたかく見守ってくださったお陰で、私たちは昨年11月をもって全ての実習を無事に終了することができました。本当に有難うございました。実習では、実習先や学校生活で、患者様、地域の方、医療機関の方と関わらせていただき、患者様の生活を見据えた看護や患者様と向き合うことの大切さを学ぶことができました。また、患者様に真摯に向き合い看護を提供している先輩の姿をみて、自分自身の看護観を考えるヒントになりました。

私たち53回生は、学年目標として「凡事徹底」を掲げて当たり前のことを徹底的に行えるように努力しています。国家試験対策委員が中心となり正答率80%を目標にして学習に取り組んでいます。国家試験までの残り一か月、今までの学びを生かし、春には53回生全員にサクラが咲くように頑張ります。

(53回生国家試験対策委員一同)

年 男 ・ 年 女



麻酔科医師
若山 洋美

ついに3度目の年女を迎え、4月には麻酔科11年目に突入します。私生活では6歳と2歳の娘の母でもあり、仕事に家庭に忙しくも楽しい毎日を送っています。これも周りで支えて下さる同僚の方々や家族のお陰だと感謝しています。主に手術麻酔を担当していますが、手術という侵襲を安全に乗り越えられるよう術前から患者さんの状態を把握し、術中は様々な事態に冷静かつ正確に対応し、術後最善の結果が得られるよう日々努力しています。また手術は多くの分野の方々が協力して成し遂げられるものですが、その司令塔となるのも麻酔科の大切な役割だと思っています。犬は賢い生き物です。私も成年女性として謙虚に賢く頑張りたいと思います。



ICU看護師
三宅 徹

新年が始まり、4月には看護師として3年を迎えます。私は、ICU看護師として様々な疾患に対しての看護や急変時の対応など多くの経験をさせていただいています。入職当時は緊張の毎日でしたが、現在はICU内の呼吸リハビリテーションチームに属し人工呼吸器装着中の患者さんが一日でも早く人工呼吸器から離脱できるように肺炎予防や呼吸リハビリテーションを先輩方に教えていただきながら実施しています。昨年は心電図検定3級も取得し苦手意識のあった心電図の理解が自信を持てるようになりました。今年は救急外来や初療室での患者ケアを学び家族看護にも力を入れていきたいと考えております。患者さんが早期に日常生活に戻れるように、患者さんに寄り添い関わりをもつことが今年の目標です。患者さんや家族に信頼される看護師になれるように努力していきます。



診療放射線技師
竹本 和弘

私は横浜医療センターが新病院に移転した2010年から放射線科で勤務をしております。改めて思い返すと、まだ新築の匂いがしていた頃の院内の風景や東日本大震災後の対応、横浜での国立病院総合医学会など、多くの記憶と共に瞬く間に過ぎていった八年間でした。私たち診療放射線技師はX線検査、CT検査、MRI検査、血管造影検査、核医学検査、放射線治療を行う医療技術者です。放射線機器を扱う機械屋さんと思われるかもしれませんが、患者さんと接する機会が多くコミュニケーション能力が大事な職種であると感じております。今年度は新型の二管球型CT装置も導入される予定です。良質な医療画像の提供と被ばくの最適化に努め、放射線医療を通じて患者の皆さんの健康に寄与してゆきたいと考えております。



外来係
関和 望実

比喩にならないほど右も左も分からなかった私ですが、皆さまのおかげで入職してから初めての年明けを迎えました。4月からひとり暮らしも始め、ようやく家の寒さにも慣れてきました。公私共に初めてばかりの毎日を歩んできましたが、思い返せば日々新しいことを吸収できる楽しみも大きかったように感じます。人に一言では説明しづらいのが困ったところですが、私の係はひとつひとつは小さいけれど色々な仕事を抱えています。病院で働く本当に沢山の職種、スタッフの方々の助けとなれるよう、また患者さんがより快適に病院を利用できるように、という目標のもと、新たな年を歩んでいきたいと思います。



MSW(医療社会事業専門員)
武田 由紀

早いもので病院に身を置いて20年以上が過ぎました。新卒で地方の病院に事務職で入職後、MSWという患者支援の専門職があると知り、志しました。入職当時は介護保険制度はなく、退院支援もそれほど厳しくなかった時代でしたが、今はその頃よりMSWに求められる役割は増えていると実感しています。今後は特に、最近増えている「高齢・独居・身寄りなし」の方へのより良い支援について、MSWができることを考えていきたいと思っています。総合病院は、人が生まれて一生懸命生きそして最期を迎える、とても特別な場所です。そこに身を置き、職務を全うできることに感謝しつつ、これからも日々の業務に携わっていきたくと思います。

お知らせコーナー

小児科アレルギー専門外来について チーム医療での取り組み

小児科医長 塩谷 裕美
看護師 内山 あやな (PAE)
看護師 委文 光子

当院では小児アレルギー専門外来があり4名のアレルギー専門医が年間約800名の通院患者の診療を行っています。アレルギー患者さんの多くは、喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎の患者さんですが、近年は、乳幼児喘息、食物アレルギーの患者さんが増加しています。

アレルギー疾患は、慢性疾患で通院治療だけでは良くならないものが多く、家庭での症状の観察や吸入・軟膏処置などのセルフケアが重要となってきます。成長発達が目まぐるしい乳幼児の患者さんや、環境が大きく変化する学童児から思春期の個々の成長と発達段階に合わせて患者さんと家族を中心とした医療を提供する必要があります。午後にアレルギー専門外来を設けていますが、医師の診察時間内では、家庭でのセルフケアに必要な知識や技術についての指導を十分に行うことは難しいのが現状です。そこで、当院ではアレルギーの専門知識・指導技術を習得したエデュケーター資格のある看護師1名と小児外来担当看護師が医師とチームを組み取り組んでいます。症状だけでなく成長発達や生活環境などに適した治療と指導が提供できるように、これからもチーム一丸となり、一人一人の患者さんに寄り添いながら努めていきたいと思っております。



小児科外来アレルギーチーム



小児アレルギーエデュケーター(PAE)紹介



看護師 内山 あやな

アレルギー疾患を持つお子さんには日々の生活の中でのアレルギー対応が必須です。「子どもが吸入を嫌がって毎日大変。」「学校で誤食してしまったらどうしよう?」等、困っていること、心配なことを気軽に相談できる医療機関がなく、とても不安になるご家族の方も少なくないと思います。私自身がアレルギー児を持つ母親として正しい専門的知識や技術を学びたいと思い、PAEの資格を取得しました。そのPAEの知識と経験を活かして、どうしたら解決できるか、外来で一緒に考えていきたいと思っております。テレビやインターネット上でアレルギーについての様々な情報があふれている中、「何を信じたらいいのか。どうしたらいいのかわからない。」と混乱したり、「毎日頑張って食事療法や軟膏処置をしているのになかなか良くならない。」と悩んでいる方がたくさんいらっしゃると思います。

今後は院内だけでなく、保育園や学校など地域の子どもの生活の場に目を向け、アレルギーについての知識やアレルギー児の理解の普及活動や長期にわたる治療期間をお子さんやご家族が安心して治療が継続できるよう支援していきたいと思っております。



診療科		月	火	水	木	金
外来受付 A	小児科	鈴木 陽一	福山 綾子	小林 慈典	鈴木 陽一	塩谷 裕美
		宮田 直	鈴木 健	斎藤 祐	矢竹 暖子	矢内 貴憲
		小林 幸輔	中永 恩廣	塩月 里恵	尾高 真生	池川 環
	心臓血管外科	盆子原 幸宏	休診日(手術日)	交代医師	休診日	西本 隆亨
	形成外科	休診日	村下 一晃	休診日(手術日)	村下 一晃	村下 一晃
	整形外科	渡邊 竜樹	日塔 寛昇	渡邊 竜樹	日塔 寛昇	佐藤 雅経
		久保田 聡	小林 秀郎	小林 秀郎	佐藤 雅経	久保田 聡
		川村 正樹	日野 勝利	川村 正樹	井上 雄介	井上 雄介
		堀 莉彩			堀 莉彩	
	総合内科	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師
糖尿病内分泌内科	重松 絵理奈	重松 絵理奈	堤 優	原 洋史	小松 裕美子	
	小松 裕美子		宇治原 誠			
神経内科	渡辺 大祐	小林 絵礼奈	高橋 竜哉	多賀須 むつき	小島 麻里	
腎臓内科	松下 啓	前田 晃延	休診日	松下 啓	休診日	
呼吸器内科	後藤 秀人	増本 菜美	池田 秀平	休診日	榎原 基史	
消化器内科	野登 はるか (第1・3・5曜日)	内山 崇 (第1・3・5曜日)	塩賀 太郎 (第1・3・5曜日)	藤井 徹朗 (第1・3・5曜日)	山田 英司 (第1・3・5曜日)	
	野中 敬 (第2・4曜日)	宮澤 志朗 (第2・4曜日)	小松 達司 (第2・4曜日)	松島 昭三 (第2・4曜日)	鈴木 大輔 (第2・4曜日)	
循環器内科	岩出 和徳	森 文章	岩出 和徳	岩出 和徳	森 文章	
膠原病・リウマチ内科	井畑 淳	渡邊 俊幸	井畑 淳	井畑 淳	井畑 淳	
外科・消化器外科	清水 哲也	関戸 仁	坂本 里紗	関戸 仁	休診日 (手術日)	
		太田 都子 (乳腺外科)				
呼吸器外科	休診日	橋本 昌憲	休診日	渡部 克也	渡部 克也	
脳神経外科	休診日 (手術日)	岡田 富 (第1・3・5曜日)	瓜生 康浩 (第1・3・5曜日)	休診日 (手術日)	市川 輝夫	
		宮原 宏輔 (第2・4曜日)	谷野 慎 (第2・4曜日)		藤澤 和彦	
緩和ケア内科(ペイン・緩和)	小川 賢一	小川 賢一	休診日	小川 賢一	小川 賢一	
外来受付 C	耳鼻咽喉科	佐々木 祐幸	神川 文彰	佐々木 祐幸	神川 文彰	交代医師
	眼科	木村 正彦	秦 桂子	岡部 智子	木村 正彦	秦 桂子
		毛塚 由紀子	岡部 智子	山内 悠也	山内 悠也	毛塚 由紀子
	泌尿器科	柳澤 昌宏	平井 耕太郎	休診日	平井 耕太郎	柳澤 昌宏
		佐藤 元己	米山 脩子		米山 脩子	佐藤 元己
	皮膚科	上田 喬士	上田 喬士	休診日 (手術日)	上田 喬士	上田 喬士
内海 友理		内海 友理		内海 友理	内海 友理	
外来受付 D	精神科	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師
	産婦人科	向田 一憲	奥田 美加	窪田 興志	栗杉 輝彦	鈴木 理絵
		永井 廉一	高山 智子	横澤 智美	岩田 亜貴子	平原 裕也
	産科	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)
	歯科口腔外科	休診日	根岸 明秀	休診日 (手術日)	根岸 明秀	休診日
		吉井 悠		吉井 悠		
専門外来 (予約制)	神経内科		頭痛外来 (第2・4曜日)			物忘れ外来
	膠原病・リウマチ内科			関節超音波		
	呼吸器内科					アスベスト外来 (第1曜日)
	脳神経外科			脳神経血管内治療外来 (畑岡 綾介)		
	放射線科	杉山 正人	杉山 正人	杉山 正人	榎多 政治	杉山 正人
	精神科	物忘れ外来				物忘れ外来

初診受付：(平日) 8:30～10:30 (平成29年4月3日より)
休診日：土曜日・日曜日・祝日、12月29日～1月3日

※予約変更・検診の予約については、14:00～17:00の受付となりますのでご了承ください。
(TEL: 045-853-8316)
※急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)
※地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月～金 8:30～17:00)
FAX 045-853-8356

※ 青色の枠の担当医 は、完全予約制となります。

◆編集後記◆

明けましておめでとうございます。今年は平成30年(2018年)、戌年であります。さて、今回記事に掲載しましたとおり、「かかりつけ医をつくろう」を合い言葉に健康フェアとして院外へ出向く初の試みが行われました。外に向かって発信していくことをモットーに、この広報誌からもいろいろと患者さん・地域の皆さんに有益な情報を引き続き発信して参りたいと思いますのでよろしく願いいたします。(K・S)